

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①ギンカ・トーゲル著『女性が管理職になったら読む本』日本経済新聞出版社 (187頁, 四六判)</p> <p>世界トップビジネススクールの一つであるIMDで女性管理職向けに長年教本をとっている著者が、女性のリーダー論に関する最新の研究結果をまとめたのが本書。統制的なリーダーシップをとる女性は「嫌な女」として男性だけではなく、同性からも反発される傾向にあると指摘。女性管理職を増やすことが日本政府の目標になっているが、「管理職」イコール「リーダー」ではないことに注意すべきと述べる。リーダーの役割は大別して、①進むべき方向を示す②それに向けて人を動かす一②の2点だと強調する。リーダーになりたくない女性は「男性のように振る舞うべき」「自分の時間を犠牲にすべき」などと自分が男性と同様に行動する必要があると誤解しているとする。</p>	<p>③堀有喜衣著『高校就職指導の社会学』勁草書房 (viii+226頁, A5判)</p> <p>バブル崩壊後の1990年代半ばごろから暗転した若者の労働市場。なかでも、高校から職業への学校の選抜・配分による「日本型」の移行システムは称賛から一転して批判の対象に移り変わった。こうしたなか、本書は「学校に委ねられた職業選抜」という通説的な理解に疑義を投げかける。とくに若者の就職が不安定化した最近20年間に十分な研究が進められなかったことへの反省を踏まえ、著者も関わった全国的な調査に依拠し、先行研究の課題に挑んでいる。その狙いは「日本型」移行の強みと限界を浮き彫りにすることである。「学校経由の就職」はいまでも量的に無視できないとしつつも、非正社員から正社員への転換という「移行経路の複線化」は生じていると指摘する。</p>
<p>②関島康雄著『キャリア戦略』経団連出版 (246頁, 四六判)</p> <p>日立製作所で人事労務分野や国際調達部門などを経験し、その後、独立した著者が、組織内で「自分で独立して稼げる人」を「一人親方」と定義し、プロ人材に育つ方法を説く。そのために必要な三つの力として、教育プログラムや上司などによる「育てる力」、仕事を中心とする「育てる場」、本人の内にある「育つ気持ち」を指摘。著者がとりわけ重視しているのは「育つ気持ち」だが、この力が最近衰えていると感じる人が多く、また、マネジャークラスに自信のなさが目立つという。グローバル競争の時代を迎えたいま、特に求められているのは組織内での「自分らしさ」「専門性」「自律性」を身に付けることだと解き明かし、自他ともに認める一人親方に育つ必要性を訴える。</p>	<p>④伊原亮司著『トヨタと日産にみるく場>に生きる力』桜井書店 (534頁, A5判)</p> <p>本書は、労使関係の成り立ちの異なる自動車大手のトヨタ自動車と日産自動車を取り上げ、働き方が多様化する労働現場の実態に注目。戦後両社でも労使が激しく対立し、その後協調的な関係を築いたが、トヨタでは養成工が現場のリーダーに育っていった。一方、日産の養成学校は1988年に幕を閉じるが、短期大学を設立し、選抜教育を推進。こうした経緯を踏まえ、両社の管理制度や競争構造からみた労働者統合の相違を照らし出す。第3部では、現場に増大する非正規労働者の現状を探るため、著者自ら非正規として両社で雇われ「末端」の労務管理の実態を比較した。最後に働く場の力学を読み解き、市場と組織に左右されつつも、「場に生きる力」を再検討している。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2016年9-10月労働図書館受け入れ)

⑤俣野敏他著『仕事の一流、二流、三流』明日香出版社(199頁, 四六判)	⑩伍賀一他編著『劣化する雇用』旬報社(252頁, 四六判)
⑥荻阪哲雄著『社員参謀!』日本経済新聞出版社(298頁, 四六判)	⑪三井正信『フランス労働契約理論の研究』成文堂(ix+261頁, A5判)
⑦石塚由紀夫著『資生堂インパクト』日本経済新聞出版社(253頁, 四六判)	⑫中山実他編著『職業人教育と教育工学』ミネルヴァ書房(iv+226頁, A5判)
⑧岸原一郎著『アドラーに学ぶよく生きるために働くということ』KKベストセラーズ(231頁, 新書判)	⑬三好信浩著『日本の産業教育』名古屋大学出版会(ix+373+11頁, A5判)
⑨中村和雄著『「ニッポン」の働き方を考える』かがわ出版(95頁, A5判)	⑭柴田悠著『子育て支援が日本を救う』勁草書房(x+261+13頁, A5判)

労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書118,275冊、洋書30,519冊、和洋の製本雑誌25,332冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

